

# 黒木西

黒木西小  
学校だより

文書:校長 齋藤英義  
令和3年11月25日(木)

NO.16



## 子どものやる気スイッチ

を押したつもりが…



私が初任者の頃、先輩から「馬を水飲み場へ連れて行くことはできない。水を飲ませることはできない。まさしく教育とはそういうものだ」と指導されていました。(もうおわかりだとは思いますが)馬に水を飲ませてあげようと思っただけで、水飲み場まで連れて行くことはできない。しかし、水を飲むか飲まないかは馬自身が決めることであり、無理矢理人が飲ませることができないということです。つまり、周りの人がいろんな機会を与えて支援することはできるが最終的にそれを実行するかどうかは本人のやる気次第であるという意味です。

定年を間近に控えた今も、「どうすれば子どものやる気スイッチが入るのか」「どうすれば自分からやりたいノと思っ、やるべきことに取り組んでくれるのか」と、日々頭を悩ませております。

そんなことを考えながら、子どもたちを迎えていたある日の朝の出来事です。

いつもはほとんど聞き取れない声でしかあいさつをしなかった低学年のAさんが、「おはようございます!」とびびりするくらい元気な声で気持ちのよいあいさつをしてくれたのです。

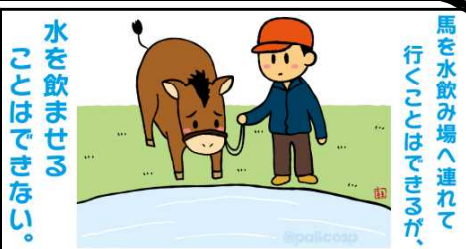
「わあー、すごいあいさつができたね!」

校長先生、すっごく気持ちよくなったよ!

と声をかけ、どうして急にあいさつが変わったのかを尋ねてみました。

Aさんが言うには、前日、B先生が「(Aさんのお兄ちゃん)Cさんのあいさつが一番いいね!」と褒めたそうなんです。その時、お兄ちゃんに負けたと感じたAさんは、それが悔しくてお兄ちゃん以上のあいさつをしようと思っ、いさつの仕方を変えたそうなんです。

「お兄ちゃんに負けたくない!」との思いが、Aさんのやる気スイッチを押したのです。そんな話をしていると、高学年のDさんが通りかかれました。Dさんについては、数日前から職員の間で、「Dさん、最近すっごく意欲的になってきましたよ。なんか、変わってききましたよ。ね。」と話題になっていた子でした。そして、それを裏付けるかのようにアセスアンケート(学校だよりNo.4



参照。子どものSOSの度合いを測るアンケートでも好結果が出ていたのです。私は、Dさん呼び止め、「Dさん、最近Dさん前よりすっごく意欲的になったように見えるけど、Dさん自身そんな感覚ってありませんか?」と尋ねると、「はい!」と即答。私も間髪入れずその理由を尋ねると「最近、勉強がわかるようになってきたからです。」とのこと。勉強がわかるようになった要因としては、本人にも謎だとのことですが、この背景には、本人の頑張り、担任等々、いくつかの要因が重なり合っていることでしょう。

私は、Dさんの即答がうれしくなり、すぐにそのことを担任のE先生に伝えました。E先生は、ニコニコ顔で聞いていましたが、おそらくE先生のやる気スイッチが押されたのは間違いなんでしょう。



翌日、Aさんが、友だちのFさん、Gさん、Hさんと一緒に校長室へやって来ました。そして、「校長先生の好奇心は何ですか?」と質問。私は、「おっ! Aさん、全校朝会で校長先生が話したこと(学校だよりNo.15参照)をしっかり覚えていたんだね。ありがとうね。」と言葉をかけるよ。Fさん、Gさん、Hさんが、「私も覚えてますよ!」とラグビーのこと、跳び箱のこと、ノミのこと、トンボのこと…と、私がこれまで全校朝会で話したことを次々に列挙してくれました。そして、Aさんが、「校長先生!一緒に来てくださーい!」と言って、昇降口に私を誘導し、「校長先生、見てください!」と、こうやってくつもちやんと並べているんですよ!と、自慢気にアピールしてくれました。実は、Aさんは4ヶ月前、全校朝会で一年生の靴が一番並んでいるという話をした時、「私、悔しいんです!」と一年生の靴、きれいですよね。」と私を呼び止めた。自分たちの学年の靴箱を見てくださーい!と訴えた子どもだったのです。(学校だよりNo.8参照)

子どもたちのやる気スイッチを少しでも押すことができればとの思いで、月に一回(15分程度)話をさせてもらっています。しっかりと受け止めてくれる子どもたちの思いを聞いて、「もっともっとやる気スイッチを押す話をしていかんといかん!」と、いつの間にか私のやる気スイッチが押されていました。

